令和元年度老人保健事業推進費等補助金

認知症介護従事者に対する研修の効果的な実施方法及び評価に関する調査研究事業

**認知症介護実践研修へのeラーニング導入方法に関する調査**

調査票

本調査は全国で実施されている認知症介護実践研修の受講機会を確保し、認知症介護従事者が受講しやすい効果的な研修方法を検討することを目的に、全国の自治体および実施団体の担当者の方々を対象に、eラーニング導入による認知症介護実践者研修、実践リーダー研修を実施する上での課題と対策に関するご意見を伺っております。

業務ご多忙な中、恐縮ではございますが、今後の認知症介護人材の質の向上にとって大変重要な調査と考えておりますので、趣旨をご理解いただき、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

|  |
| --- |
| **【ご記入に際してのお願い】**  1. 認知症介護研修事業を担当している方がお答えください。  2. 担当者の一存で判断が難しい場合は、担当部署の責任者がお答えください。  3. 調査への協力はあくまでも任意ですので、調査への協力が承諾いただけない場合も未記入で構いませんので返送してください。  4. ご回答がすみましたら、お手数ですが同封の返信用封筒に入れ、**11月13日（水）**  までにご投函をお願いいたします。  5. 記入上の不明な点、調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。  社会福祉法人東北福祉会  認知症介護研究・研修仙台センター  〒989-3201　宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6-149-1  TEL／FAX：022-303-7556  e-mail：[tecchan@dcnet.gr.jp](mailto:tecchan@dcnet.gr.jp) 担当：阿部・堀籠 |

調査票を記入される方についてお伺いします。

|  |  |
| --- | --- |
| 自治体名・団体名 |  |
| 担当課ならびに氏名 |  |

Ⅰ.　 **認知症介護基礎研修におけるeラーニングの実施状況についてお伺いします。**

**該当する項目に○をつけるか、該当箇所に記入をしてください。**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ① eラーニングの実施予定はありますか。 | 1.　実施予定はない  2.　実施している　平成（　　　　）年から  3.　予定している　令和（　　　　）年から  4.　実施していたが（　　　　　　）年度からやめた、やめる予定 | | | |
| ② ①で「1.　実施予定はない」「4.　実施をやめた」を選択した方にお伺いします。実施しない理由は何ですか。あてはまるもの全てに○をしてください（複数回答）。 | | | | |
| 1.　集合型研修より教育効果が低い  2.　eラーニングによる研修のしくみがよくわからない  3.　受講者のニーズが低い  4.　受講者の管理が難しい  5.　予算確保がしにくい  6.　周知の仕方が難しい  7.　パソコンやスマホなど受講環境が整っていない  8.　受講者数の予測がつきにくい  9.　半日は集合型に参加しなければならない  10. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | | | | |
| ③ 認知症介護基礎研修の実施状況についてお伺いします。 | | | | |
| 平成29年度　受講定員数　　　　　名 | | 応募者数　　　　　名 | | 受講者数　　　　　名 |
| 平成30年度　受講定員数　　　　　名 | | 応募者数　　　　　名 | | 受講者数　　　　　名 |
| 平成31年度（令和元年度）　受講定員数　　　　　名 | | | 応募者（受講者）数　　　　　名 | |

Ⅱ.　 **認知症介護実践者研修、実践リーダー研修、指導者養成研修についてお伺いします。該当する項目に○をつけるか、該当箇所に記入をしてください。**

|  |
| --- |
| ① 実践者研修で課題に感じていることは何ですか。あてはまるもの全てに○をしてください（複数回答）。 |
| 1.　研修期間が長い　　　　　2.　受講者のレベルがばらばらである  3.　講師が少ない　　　　　　4. 科目数が多い  5.　研修内容が難しい　　　　6.　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| ② 実践者研修にeラーニングのしくみを導入することに賛成ですか。 |
| 1.　とても賛成　　　2.　まあまあ賛成　　　3.　やや反対　　　4. とても反対 |
| ③ 理由を教えてください。 |
| ④ 実践リーダー研修で課題に感じていることは何ですか。あてはまるもの全てに○をしてください（複数回答）。 |
| 1.　研修期間が長い　　　　　2.　受講者のレベルがばらばらである  3.　講師が少ない　　　　　　4. 科目数が多い  5.　研修内容が難しい　　　　6.　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| ⑤ 実践リーダー研修にeラーニングのしくみを導入することに賛成ですか。 |
| 1.　とても賛成　　　2.　まあまあ賛成　　　3.　やや反対　　　4. とても反対 |
| ⑥ 理由を教えてください。 |
| 自治体担当者のみ回答  ⑦ 指導者養成研修で課題に感じていることは何ですか。あてはまるもの全てに○をしてください（複数回答）。 |
| 1.　研修期間が長い　　　　2.　受講希望者がいない　　　　3.　研修場所が遠い  4.　予算確保が難しい　　　5. 研修内容が難しい　　　　　6.　人数が足りている  7.　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| ⑧ 指導者養成研修にeラーニングのしくみを導入することに賛成ですか。 |
| 1.　とても賛成　　　2.　まあまあ賛成　　　3.　やや反対　　　4. とても反対 |
| ⑨ 理由を教えてください。 |

Ⅲ.　 **以下に示すeラーニングを導入した場合の研修の実施方法について、ご意見をお伺いします。**

※本事業では、認知症介護実践者研修、実践リーダー研修のeラーニング導入による研修方法としてeラーニング等による事前学習と集合研修を組み合わせたブレンド型の研修方法を2案考えました。

以下では、皆様の地域で実際に実施する場合、実施上の具体的な課題や対策方法案についてご意見を伺わせてください。

【案1】 事前学習にeラーニング受講を導入した研修方法

　事前学習のeラーニング受講と集合研修を組み合わせた研修方法です。認知症介護基礎研修と同様のしくみで、研修申し込みをした後、eラーニング受講し、受講許可書を提出して研修会場で研修を実施する方法です。

手続きの詳細

|  |  |
| --- | --- |
| **実施内容** | **詳細** |
| **① 研修の案内、告知** | |
| a.研修案内告知 | 事前学習（eラーニング）受講方法と集合研修に関する案内告知募集を行う。 |
| **② 受講申し込み** | |
| a.受付け、受講者ID、PWを発行、付与 | 研修受講申し込みを受け付け、eラーニング受講用サイトを案内する。eラーニング受講用ID、PWは、サイト初期画面で受講者が利用登録した後、サイト上で自動発行される。実施主体は、管理者権限によって登録者の基本情報を参照することが可能。登録者名簿も自動作成される。 |
| **③ 事前学習の実施（eラーニングシステム利用）** | |
| a.指定Webサイトにて利用登録 | eラーニング受講者は、指定Webサイトで氏名等の基本情報を入力して登録し、その際にID、PWが発行される。次回以降は発行されたID、PWによって受講が可能となる。 |
| b.事前課題テストの実施（システム内） | eラーニング受講者は、本学習を始める前に各科目の基本知識に関する2～3問、計30問～40問程度の選択式回答による確認テストを実施。 |
| c.成績に応じ学習科目の決定（自動判定） | 確認テストの結果により受講科目が自動判定される。1回の学習コンテンツは3分～5分程度、各科目内の単元ごとに受講し確認テストが終了し単元学習が終了する。モバイル端末での学習を可能とする。 |
| d.指定科目の受講 |
| e.科目毎確認テストの実施（全問正解まで再実施） | 各科目の各単元毎に5問程度の自己確認テストをシステム上で行い、全問正解するまで単元が終了しない。確認テストは繰り返し実施できるが、問題は異なる。また、1回目の確認テストは当該学習内容を視聴しないと実施できないしくみとする。2回目以降はこの限りではない。 |
| f.受講許可証の発行 | 全科目受講終了時、受講許可証発行ボタンが選択可能となり画面表示および印刷可能となる。 |
| **④ 研修参加申し込み** | |
| a.受講許可証の提出と申し込みを受け付ける | 受講許可証が発行された者は、管理者側で把握可能なため、自動提出となり、通常の研修申し込み手続きのみを行う。 |
| **⑤ 集合研修参加** | |
| a.演習、グループワーク等を中心とした学習 | 基本知識等の講義は最小限とし、演習、グループワーク、体験学習等による応用知識、考え方、基本姿勢等を学ぶ。 |
| **⑥ 実習参加** | |
| a.実習を中心とした学習 | eラーニング、演習等で学習した知識や技術を活用し体験的に学習する。 |
| **⑦ 修了評価の実施** | |
| a.事後課題テスト、レポート等を実施 | 修了評価については、演習等を通じて学習した内容についてテスト形式、レポート形式等を実施する。 |
| b.合否基準は、シラバスの学習到達目標を基準 | 判定、評価方法は自治体により任意となるが、全国共通の判定基準は、標準カリキュラムの学習到達目標となる。 |
| c.合格者は修了、不合格者は集合型研修再受講 | 合格者は修了書付与、不合格者は再受講となるが、不合格者については学習課題等の提示により次回受講の促しを行うことが重要。 |

【案1】 のeラーニング導入した研修方法について、実施する上での課題および対策方法についてご意見をご記入ください。

|  |
| --- |
| ① 研修開催の案内、募集、告知について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ② 受講申し込みについて |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ③ 事前学習（eラーニング）の実施について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ④ 研修参加申し込みについて |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ⑤ 集合研修  ⑥ 実習参加について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ⑦ 修了評価の実施について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ⑧ その他、全体について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |

【案2】 事前学習のeラーニング受講を任意とする研修方法

　事前学習を受講者の任意とし、eラーニング、テキスト、DVD、公開動画等を任意に利用し、各自好きな方法で事前学習を行い、最終課題をWeb上で実施し、受講許可書を受領した後、申し込みを行い、研修会場で研修を実施する方法です。



手続きの詳細

|  |  |
| --- | --- |
| **実施内容** | **詳細** |
| **① 研修の案内、告知** | |
| a.集合型研修及び受講要件等の告知 | 集合研修前の事前学習に関する手順、方法、内容等の案内と、集合研修申し込みに関する案内告知。 |
| b.事前学習方法・内容の案内（テキスト等の範囲指定） | 事前学習範囲を案内（テキストにて範囲を指定）。 |
| **② 事前学習（任意）の実施** | 集合研修実施前の学習方法は受講者の任意となり、自治体等の実施主体側の管理は無い。基本はeラーニング受講となるが、受講困難な場合、テキスト、公開動画、DVD等の教材を準備し案内する。 |
| a.指定Webサイトにて利用登録 | eラーニングによる受講は、指定Webサイトより各自、氏名等の基本情報を入力して登録し、自動付与されるID、PWによって受講。 |
| b.事前課題テストの実施（システム内） | 学習を始める前に各科目より2～3問、計30問～40問程度の選択式回答による基本知識確認テストをシステム上で実施。 |
| c.成績に応じ学習科目の決定（自動判定） | テスト結果に応じ受講科目が自動判定される。学習者によって学習科目数が異なる。 |
| d.科目毎確認テストの実施（全問正解まで再実施） | 各科目の各単元毎に5問程度の自己確認テストをシステム上で行い、全問正解するまで単元が終了しない。確認テストは繰り返し実施できるが、問題は異なる。また、1回目の確認テストは当該学習内容を視聴しないと実施できないしくみとする。2回目以降はこの限りではない。 |
| ＊eラーニング以外の教材を使用 | eラーニングを選択しない者は、各自、テキスト、公開動画、DVD等の教材を使用し学習する。 |
| **③ 最終課題（必須）の実施** | |
| a.最終課題テストをWeb上で各自受講（期間設定） | 受講者は、全科目受講後、eラーニング上の最終課題テストを受ける。その際、研修日程等を勘案し実施期間を設定する。 |
| b.各科目から2～3問×科目数　30問～40問程度  制限時間60分 | 最終課題テストは、集合型研修におけるグループワークや演習に必要な基本知識等の習得状況を確認することが目的である。よって、不正受講を防止するため実施時間に制限を設ける。テストは全科目から数問ずつ計30問～40問程度、正誤式、穴埋め等の選択式とする。 |
| c.基準点以上者→受講許可証発行 | 最終課題テストの結果、基準点以上の者には受講許可証が自動発行される。 |
| d.基準点以下者→再テストを基準点になるまで繰り返し実施 | 基準点以下の者は、再度、課題テストを受講し基準点になるまで繰り返し受講する。 |
| **④ 受講申し込み** | |
| a.受講許可証の提出と申し込みを受け付ける | 受講許可証が発行された者は、管理者側で把握可能なため、自動提出となり、通常の研修申し込み手続きのみを行う。 |
| **⑤ 集合研修参加** | |
| a.演習、グループワーク等を中心とした学習 | 基本知識等の講義は最小限とし、演習、グループワーク、体験学習等による応用知識、考え方、基本姿勢等を学ぶ。 |
| **⑥ 実習参加** | |
| a.実習を中心とした学習 | eラーニング、演習等で学習した知識や技術を活用し体験的に学習する。 |
| **⑦ 修了評価の実施** | |
| a.事後課題テスト、レポート等を実施 | 修了評価については、演習等を通じて学習した内容についてテスト形式、レポート形式等を実施する。 |
| b.合否基準は、シラバスの学習到達目標を基準 | 判定、評価方法は自治体により任意となるが、全国共通の判定基準は、標準カリキュラムの学習到達目標となる。 |
| c.合格者は修了、不合格者は集合型研修再受講 | 合格者は修了書付与、不合格者は再受講となるが、不合格者については学習課題等の提示により次回受講の促しを行うことが重要。 |

【案2】 のeラーニング導入した研修方法について、実施する上での課題および対策方法についてご意見をご記入ください。

|  |
| --- |
| ① 研修開催の案内、募集、告知について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ② 事前学習（任意）の実施について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ③ 最終課題（必須）について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ④ 受講申し込みについて |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ⑤ 集合研修  ⑥ 実習参加について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ⑦ 修了評価の実施について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |
| ⑧ その他、全体について |
| 【実施上の課題】 |
| 【考えられる対策】 |

大変お忙しい中、ご協力、誠にありがとうございました。

質問項目が多く、ご負担をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

回答いただきましたデータは、貴重なご意見として厳重に管理させていただくとともに、今後の認知症介護人材の育成に活用させていただきたいと思います。

本調査の結果は分析を行い、その結果に基づき報告書を作成いたします。完成した報告書は、インターネットサイト「認知症介護情報ネットワーク（通称DCnet）https://www.dcnet.gr.jp/」にて、掲載・公開する予定です。閲覧・ダウンロードが可能となりますのでご参考にしていただけると幸いです。